

大和合金 三芳工場が一部稼働 製造、検査工程を効率化

特殊銅合金メーカーの大和合金(本社「東京都板橋区、萩野源次郎社長」)はこのほど、昨年取得した三芳工場(埼玉県入間郡三芳町)に本社工場から一部設

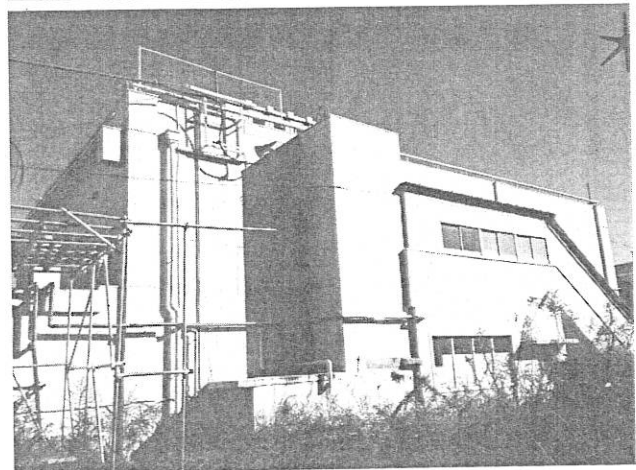
備を移設し、操業を開始した。本年中に本社の加工設備の全面移設を完了する予定。グループ会社の三芳合金工業から徒歩1分あまりと近く、素材の製造か

ら加工、検査までの流れを効率化できる。同社は昨年12月、化学メーカーが保有していた工場を数億円で買収。敷地面積は約5600平方メートルで、2階建

の工場建屋のほか、2棟の倉庫を有する。延べ床面積は約2600平方メートルで、本社工場の3倍の広さがある。本社工場は、三芳合金工業で製造した銅合

金製品の切断・旋盤加工などを行っている。年内をめどに本社工場の旋盤や自動切断機、バンドソーなどを全て三芳工場へ移設。すでに移設を終えた旋盤2基で今月より順次稼働を開始している。設備移設に合わせて内装工事も行い、事務所や会議室、応接室も作る。三芳合金は素材の製造だけでなく、加工や出荷前の品質検査など

も行う。これまででは三芳から大和に送って加工し、再び三芳に戻し



三芳工場外観

て検査する必要があったが、三芳工場の稼働により出荷までの時間

やコストが改善する。また、本社工場は設備や在庫を増やす余地がなくなっていたが、三芳工場の取得により

今後さらなる成長事業への投資がしやすくなる。萩野社長は「両社の物理的な距離が近くなることで、これまで以上に連携を取りやすくなる」と、グループの最適な生産管理の改善などにも寄与すると期待する。